

〔釈文〕

一七 ひろい にほんで なもたかき
 あいづ ばんだいさんの をさわぎ
 きくも かたるも をそろしや
 二 ふもとわ ごかむら そのほかに
 ろくり よほうの さわぎにて
 そくしの かづく かづしれの
 三 みるも をそろし このさわぎ
 ばんだい さんわま ふきやふれ
 したより くはいんが もいあがる
 四 よにも じこくハ あるものよ
 これが とうくハつ じこくかと
 くるしむ ひとのま ありさまハ
 五 いかに じこくが あれバとて
 このよで 三十 ろくかむら
 いちどに ほのうの くるしみで
 六 むごい ものだよ ばんだいの
 とうじの ひとく だいそこに
 かわいいや そのかづ 百五十にん
 七 ならくの ことハ このことよ
 つまや こどもの あるみでも
 しにめも あわづて このよのわかれ
 八 やまハ くづれて のまとなる
 のまハ むまりて やまとなる
 いしハ くだけて じやりとなる
 九 こゝん まれない をさわぎ
 いしハ てんより ふりくだる
 したより ほなうが もいあがる
 十 とどろく だいじハ ひやくはちの
 かみなり さまのま ごとくにて
 いきた こゝろの ひとわなし
 十一 いばら をかかわ こがわまで
 すいろハ ふさがり でんぱたも
 みづだめ こぼりも みなつぶれ
 十二 にわか の さわぎの ことなれバ
 をやこ ちりじり にげいだす
 いのち あつての ものがたり
 十三 さんく くづれし そのころハ
 七月 なかバの 十五日

十四 ごぜん はちじも すぎしころ
 しほう はつぼうハ くらけむり
 ちやうちく るいまで みなごろし
 十五 みのけも よだつる ばかりなり
 ごたいも ちまると をそろしさ
 つまこに わかるゝ かなしさに
 をやに わかるゝ あわれさよ
 十六 ろく十 よしうハ ひろくとも
 ばんだい さんのま をさわぎ
 みるも あわれの かぎりなし
 十七 しかし ひとつの ふしぎあり
 ひばら むらにて ひとりもの
 としハ 八十で をバゞさん
 十八 はるの ころより いっぴきの
 いのを だいじに かいをけバ
 このいの ごをんを をくらんと
 十九 くびを かたげて このいのハ
 ものわ いわねど めでしらす
 そでを くわいて つれてよく
 二十 にわかのだいなん まのかれて
 うれしや ぶちやと をバゞさん
 こんな さわぎが よにあるか